

ルカの福音書 第9章 51節

「さて、天に上げられる日が近づいて来たころ、イエスは、エルサレムに行こうとして御顔をまっすぐ向けられた、」

昨日からの雪があたり一面に積もり、ベランダの花々、伸びる小枝に覆いかぶさっている。雪の重みで垂れ下がっている。このまま夜中を過ぎ、凍てついたら植物は耐えられないのではと気がきでしかたがない。数日前までは寒風に揺さぶられながらも保っていた枝が垂れ下がったままで終わるのではないかと気になる。今日は寒さのなかから太陽が照らす青空一杯の朝となる。昨夜の雪も解け始め垂れ下がっていた小枝も頭をもち上げ始める。陽の温もりと地中の支えで厳冬の夜を突き破り枝が頭を持ち上げ始める。

苦難の生涯を歩んで来られたイエスが天に上げられる日、十字架に上げられる日の近づくことを受け止め、そのときに向かって立ち上がり進む。このときまで、幾多の厳しい状況に直面してきた。その度、その真ただ中ですくっと立ち上がり進んできた。世の苦難を身に受け、罪無きお方が人の罪を身にまとい、人が受けるべき神の怒りと裁きをすべて引き受けた。世の誰一人経験することができないほどの神の怒りと裁きを受けられた。このお方が十字架に向かいすくっと立ち上がり進む。世のため、私たちのため。

2022年1月7日